

マッチングのための公開を前提とした歴史的建築物調査の試行的手法検討

<調査概要>

■調査実施地域:北海道小樽市

■調査実施者:特定非営利活動法人「歴史文化研究所」

- 北海道小樽市をフィールドとして空家化が進む歴史的建築物を調査し、その物件情報を公開、利用意向者に提供することで所有者と利用者のマッチングに資し、歴史的建築物の利用を促進することでその保全を図ろうとするNPO法人「歴史文化研究所」が調査を実施。
- 事前に「電話対応マニュアル」を策定するなど準備し、289名の所有者に接触を試み、16名と面会、6名から物件情報の提供・公開許諾が得られた。調査手法についての課題があることや、物件情報整備に必要な手間、段階毎の成果が得られる割合などについての知見が得られた。

<調査内容>

【事前準備】

住宅利用のマッチングを前提として下記のマニュアル等を検討・作成し、調査実施に備えた。

- ・物件抽出手法
- ・所有者調査マニュアル
- ・電話対応マニュアル
- ・現地調査手法 等

【調査実施】

行政等の既往調査をベースとして活用しつつフィールドワークを行い、現存物件を抽出

1,023件 現存が確認できた物件

28.3%

電話帳活用や近隣住民への聞き込みにより所有者と思われる者の連絡先を調査

289名 把握できた予想所有者の連絡先

12.5%

電話して取組の趣旨等を説明

36名 理解を得つつ電話できた所有者

44.4%

電話で面会を依頼

16名 面会できた所有者

37.5%

面会して現地調査・物件情報公開を依頼

6名 情報公開許諾が得られた所有者



所有者の理解を得るには、調査員の交渉ノウハウ蓄積や手法改善が必要である等、調査手法についての課題があることがわかった。

調査に必要な手間や成果割合の知見が得られ、他地域での取組時の参考となることが期待される。